

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0570812644
法人名	有限会社県南ケアシステム
事業所名	グループホームすまいる中仙
所在地	〒014-0201 秋田県大仙市下鶯野字大谷151番地 (電話) 0187-56-4400
評価機関名	財団法人秋田県長寿社会振興財団
所在地	〒010-1412 秋田市御所野下堤5-1-1
訪問調査日	平成20年11月12日

【情報提供票より】 (20年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造軸組 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 200 円
	夕食	250 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		750 円

(4) 利用者の概要 (20年10月25日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護 1	2 名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	1 名
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 71 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人今村循環器科内科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年宅老所からスタートし、平成17年にグループホームとして新たに開設され、地域とのつながりを大切に「毎日笑顔を絶やさずに自分らしく生きていきたい」を運営理念としている。管理者を中心に常に家庭的な雰囲気を大切にしながら、第二の我が家として、利用者一人ひとりが自分のペースで、スタッフが優しく寄り添いながら、ゆっくりとした温かい雰囲気の中で生活している。スタッフの体制は、年齢層も幅広く、新鮮な目から経験豊富な目で、利用者及びご家族が安心して生活できるよう見守っており、日々笑顔作りに向けたケアを目指し実施している。外部との関わりは、医療機関との連携も密に行われ、地域の関係者との交流等もあり、開放されたホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	要改善点は特になし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	運営者、管理者はもとより職員全員が自己評価についての意義を理解し、サービスの質の確保、向上のため有効に活用されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を行ない、日頃の入居者の状況や外部評価の結果を報告し、検討している。市担当者にはホームの行事に参加を呼びかけるなど、常に交流がもたれている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	面会時には利用者の近況を報告しながら、家族からの意見等を必ず確認している。また、毎月の出納帳管理の報告や年3回のホームだよりの発行、その他にも家族交流会を実施して家族の意見を拾い上げ、管理者よりスタッフへ周知され要望等が反映されるよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の行事等にも積極的に参加し、ホームの畑で収穫された野菜を近所におすそわけしたり、冬期には除雪の協力を得るなど近所付き合いも良好に行われている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にとって必要な存在であるために「毎日笑顔を絶やさずに自分らしく生きていきたい」という運営理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2ヶ月に1回開催される運営推進会議に必ず運営者も参加し、理念の共有に向けて取り組んでいる。また、職員全員が勉強会を通して共に支えあい、地域との関わりあいの大切さを意識づけしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元で行われるジャンボうさぎまつりなど地域の行事等に参加したり、また民謡のボランティアの方などを受入れ、地元の人々との交流に努めている。	○	地域行事等にも参加されているが、より地域とのつながりを深めていくために町内会に参加するなどして、地域で必要とされる活動を担っていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価シートを活用しながら評価分析を実施し、ミーティングや申し送りで職員全員が具体的に話し合い取り組んでいる。	○	自己評価シートの評価分析された記録を残し、継続した評価分析を行い、職員全員が共有し質の向上につながっていくことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される運営推進会議では、外部評価の結果を報告し、検討している。また、ホームで行われる行事にもメンバーに参加を依頼し、入居者の関わりを大切にしながらサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者を夏まつり等の行事に招待したり、市町村担当者からは入居者に関わる情報提供等も行われており、共に連携を図りながらサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年3回のホームたよりの発行により、日々の生活の様子等をお知らせしている。また、電話や面会時には健康状態等について報告している他、毎月1回、金銭出納帳を家族等に確認していただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今までに苦情等はないが、家族交流会などで出された意見を大切にしながら日々の運営に役立てている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は4月、11月と年2回実施されているが、職員との馴染みの関係を重視しながら必要最小限の職員異動を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に向けての研修計画は立案されていないが、段階に応じた職員の研修が行われ、勉強会等を実施しながら人材の育成に取り組んでいる。	○	外部研修等を研修計画に取り入れることにより、職員の研修参加に対する意欲が高まり、より良いケアとなって活かされるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、近隣の同業者間で新任職員の見学実習等を行うなど、日々のサービスの質の向上や職員育成に向け積極的に交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	事前に必ず本人と家族等にホーム内を見学しながら様子を見ていただき、安心して利用するための十分な説明と話し合いを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の意見や思いをできるだけ多く聞き入れながら、日々の生活の中での役割を大切にしている。また、入居者から教えてもらうことや気づかされることも多くあり、共に支えあう関係を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画に基づきながら思いや願いが叶えられるよう、利用者を生活の主体者として見る視点を大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人からの意向はもとより、常に家族等にも相談しながら作成されており、帰宅願望のある方などはできるだけ外出、外泊を計画に組み入れるなど、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリングも行われており、本人、家族等の要望や変化に応じて臨機応変に見直すなど、現状に即した介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者、家族等の要望に応じて安心して継続した生活が支援できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と年1回の歯科検診などが定期的に行われている他、常にかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局と連携がとられ、本人、家族等が納得し適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期に対する指針に従い対応しており、入居者や家族等が安心してサービスを利用できるよう支援されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時に契約書で取り交わし、またホーム内研修や日々の言葉かけにも留意しながら、プライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて十分注意するよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活スタイルを尊重しながら、入居者のちょっとした要望でも聞き逃さず叶えられるよう、その人らしい暮らしの実現に向け支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑に植えてある野菜を利用者も手伝いながら職員と一緒に収穫したり、受診の帰りに外食したりする等、「食」を通して楽しみや潤いのある生活に向け取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入居者一人ひとりのペースや健康状態に応じて対応しながら、安心・安全そして快適に入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみやペンキぬり・かごあみ作りなど、日々の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけ、喜びや活力を無理なく引き出せるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の要望に応じて、可能な限り戸外に出かけ、季節を肌で感じ、外出を楽しめるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	職員全員が鍵をかけないことの意味を理解しており、玄関にはセンサーチャイムなどを使用して、日中も玄関に鍵をかけない工夫をしながら安全に過ごせるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、自主検査チェック表を使用しながら、日々防災の意識を高められるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士が献立を作成しており、必要に応じて指導や助言が受けられる体制が整っている。また職員全員が一人ひとりの状態を把握し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感を感じる花々が植えられ、廊下には手作りの装飾品等も飾られている。また、くつろぎながら集う場所も確保され、ゆったりとした生活の中で笑顔を絶やさず生活できるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には一人ひとり使い慣れた物を置くななど、自宅にいたときのように住み慣れた家庭的な雰囲気作りを心がけている。		

※ は、重点項目。